

SNSの利用が多い小中学生の特性

水野 一成 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
近藤 勢津子 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
吉良 文夫 (NTTドコモ モバイル社会研究所)

小中学生のスマートフォン所有率は上昇傾向にあり、それに伴いSNS (LINE・X・TikTok・Instagram) の利用率も増加している。2023年11月時点でのSNS利用率は63% (中学生は96%) に達した。SNSの利用には、小中学生のひととの繋がりを深め、拡大させる正の側面が存在する一方で、犯罪に巻き込まれるなどの負の側面もある。本稿では、SNSを高頻度で利用している子どもの特性を、小学生と中学生に分け、各サービスに対して数量化理論第Ⅱ類を用いて明らかにすることを目的とした。分析の結果、「親と子が直接会話する時間」が短いことが共通の特性として浮かび上がった。「子のICTスキル」は小学生では低く、中学生は高かった。また、「スマホのペアレンタル・コントロール」や「友達の多さ」「親の年齢」との関係は見られなかった。

キーワード：SNS、スマートフォン、小中学生、多変量解析

1. 研究の背景及び目的

NTTドコモ モバイル社会研究所が2018年から毎年実施している調査の結果によれば、スマートフォン (以下、スマホ) の所有率は年々上昇しており、2023年11月時点 (調査概要は項番2で説明) では、小学生の低学年においては18%、高学年では42%、中学生になると79%に達している (図1)。スマホの所有率の上昇に伴い、SNS (本稿ではLINE・X・TikTok・Instagramと定義する) の利用率も増加しており、いずれかのSNSを利用している小学生低学年は36%、高学年では63%、中学生では96%が利用していることが明らかになっている。なお、それぞれのサービスの利用率は学年を問わずLINEが最も高く、中学生では92%に達している (図2)。次いで利用率が高いのはTikTokであり、中学生の利用率は52%であった。Instagramも上昇傾向であり、中学生での利用率は47%であった。なおInstagram及びXの小学生の利用率はいずれも10%未満である。

小中学生がSNSを利用することにより、人

との繋がりが深まり、既存の友達との関係を維持し、新たな友達を得るなどの肯定的な側面が見られる (図3) 一方で、警察庁によると重要犯罪に遭う被害児童数が増加していることなど、負の側面も存在している。

このような状況下、今後の対策を検討する上でも、現在SNSの利用が多い小中学生の特性を明らかにすることは重要であり、これを本稿の目的とする。

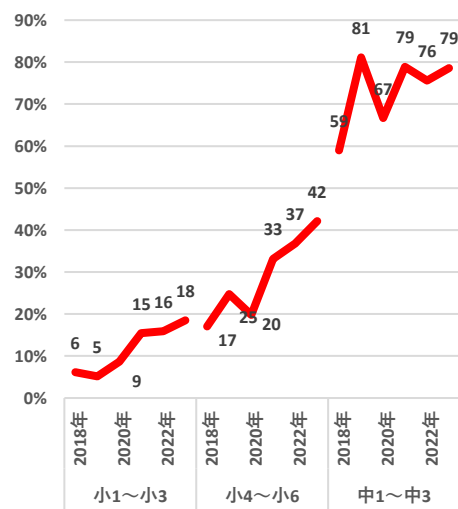


図1 スマートフォンの所有率

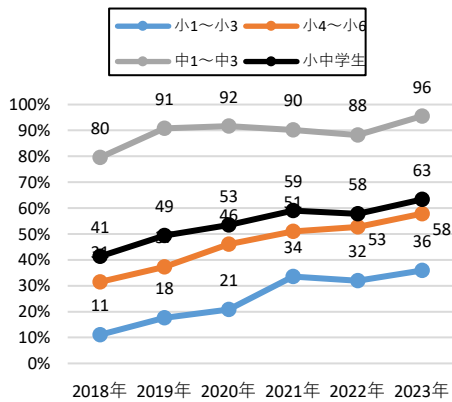


図2 SNSの利用率

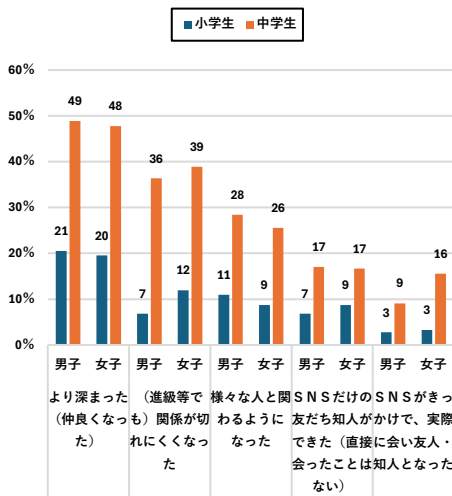


図3 SNSを利用したことによる人との繋がりの変化

2. 調査概要

調査時期：2023年11月

調査対象：関東1都6県、

小中学生の親と子

調査方法：訪問留置調査

標本抽出法：QUOTA SAMPLING

性別(5歳刻み)・学年・エリア・都市規模で割付

回答数：600

3. 分析

1. 分析の流れ

小学生と中学生について、SNSごとの利用頻度に基づき「高利用群」と「低利用群/未利用群」に分類し、これを目的変数とした。説明変数には子に関する「属性」「ライフスタイル」「ICT関連」、親に関する「ICT関連」「属性」、さらに「親と子の関係」の計13項目を設定した。なお、分析には数量化理論第Ⅱ類を用いる。

2. 目的変数

小学生と中学生の各SNS別利用頻度の結果に基づき、学年ごとに「高利用群」と「低利用群/未利用群」に分類した(表1参照)。ただし、小学生におけるXおよびInstagramの利用率はそれぞれ2%と10%と低く(回答者数が少ないため)、これらは分析対象から除外した。

表1 SNSサービス別(%)

		未利用	1日1回より少ない	毎日30分くらい	毎日1時間くらい	毎日2時間より多い
LINE	小学生	23	24	40	12	1
	中学生	3	15	44	24	15
X	小学生	98	1	1	0	0
	中学生	69	14	11	2	4
Instagram	小学生	90	3	6	0	1
	中学生	49	13	22	10	6
TikTok	小学生	60	8	17	9	6
	中学生	43	12	15	19	11

■ 高頻度 ■ 低頻度/未利用 ■ 分析対象外

3. 分析の精度

判別的中率及び相関比 η^2 を表2に示す。

中学生のXは、値が両方とも低い。

表2 判別的中率及び相関比

		LINE	TikTok	Instagram	X
小学生	判別的中率	76.3%	70.2%	-	-
	相関比 η^2	0.38	0.27	-	-
中学生	判別的中率	72.4%	71.0%	71.7%	60.0%
	相関比 η^2	0.26	0.23	0.25	0.13

4. 考察

4.1 利用頻度が高い小学生の特性

説明変数を目的変数との偏相関係数が高い順に並び替えを行い、偏相関係数が 0.20 以上の説明変数については、カテゴリースコアの傾向をもとに高頻度の子どもの特性を記載した。表 3 では LINE の結果、表 4 では TikTok の結果を示す。両者に共通しているのは、「子の ICT スキル」（ICT を利用する際に必要となる 13 項目のスキルを類型化して変数とした）が高いことである。一方で、「子の情報活用能力」は低い傾向が見られた。

LINE においてのみ観察された特徴としては、「親と子が直接会話する時間」が短いこと、「親の学歴」がやや低いこと、さらに「子が新しいものの好きではない」といった特性が挙げられる。また、「親の年齢」や「子の性別」「子の友達の多さ」「ペアレンタル・コントロールの実施有無」との相関は低いことも明らかとなった。

4.2 利用頻度が高い中学生の特性

次に、中学生の結果について述べる。表 5 には LINE、表 6 には TikTok、表 7 には Instagram の高頻度利用者の結果が示されているが、全ての SNS において共通して見られた説明変数は「親と子が直接会話する時間」が短いことであった。また、LINE と Instagram に共通して見られた特徴としては「子の ICT スキル」が高いという点が挙げられる。さらに、TikTok と Instagram の両方において見られた特性としては「子の性別」が女子であった。

一方、「友達の多さ」や「子の情報活用能力」「ペアレンタル・コントロールの実施有無」との相関は低い。なお、表 8 の X については、偏相関係数が 0.20 以上の説明変数は確認されなかった。

表 3 小学生 LINE 高頻度の子の特性

説明変数	レンジ	偏相関係数	高頻度の子の特性
子の ICT スキル	2.76	0.44	高い
親子時間	1.68	0.31	短い
子の情報活用能力	1.16	0.23	低い
両親の学歴	0.76	0.22	やや低い
新しいものの好き	0.98	0.22	ではない
親のネット利用時間	0.65	0.19	
学校の成績	0.64	0.18	
子どもの学年	0.58	0.18	
約束を守る	0.57	0.14	
ペアレンタルコントロール	0.40	0.13	
友だちの多さ	0.51	0.10	
子どもの性別	0.27	0.10	
親の年齢	0.45	0.10	

表 4 小学生 TikTok 高頻度の子の特性

説明変数	レンジ	偏相関係数	高頻度の子の特性
子の ICT スキル	1.38	0.29	高い
子の情報活用能力	1.50	0.25	低い
親のネット利用時間	0.77	0.19	
約束を守る	0.76	0.17	
新しいものの好き	0.66	0.15	
学校の成績	0.95	0.15	
親子時間	0.61	0.15	
ペアレンタルコントロール	0.52	0.13	
両親の学歴	0.67	0.13	
子どもの性別	0.40	0.11	
友だちの多さ	0.50	0.08	
親の年齢	0.27	0.06	
子どもの学年	0.15	0.03	

表 5 中学生 LINE 高頻度の子の特性

説明変数	レンジ	偏相関係数	高頻度の子の特性
親子時間	1.22	0.25	少ない
両親の学歴	1.09	0.22	低い
子の ICT スキル	0.85	0.22	スマホが高い
新しいものの好き	0.95	0.19	
約束を守る	0.92	0.19	
学校の成績	0.89	0.18	
親のネット利用時間	0.82	0.16	
親の年齢	0.80	0.15	
ペアレンタルコントロール	0.33	0.09	
子の情報活用能力	0.22	0.06	
友だちの多さ	0.12	0.03	
子どもの性別	0.04	0.01	

表 6 中学生 TikTok 高頻度の子の特性

説明変数	レンジ	偏相関係数	高頻度の子の特性
子どもの性別	1.04	0.27	女子
親子時間	1.16	0.23	少ない
学校の成績	1.08	0.19	
親のネット利用時間	0.91	0.18	
新しいものの好き	1.05	0.15	
子の ICT スキル	0.69	0.15	
両親の学歴	0.79	0.13	
親の年齢	0.75	0.12	
友だちの多さ	0.27	0.07	
子の情報活用能力	0.26	0.06	
約束を守る	0.18	0.03	
ペアレンタルコントロール	0.06	0.01	

表 7 中学生 Instagram 高頻度の子の特性

説明変数	レンジ	偏相関係数	高頻度の子の特性
学校の成績	1.53	0.28	下位
子のICTスキル	1.28	0.25	高い
子どもの性別	0.88	0.24	女子
親のネット利用時間	1.41	0.21	やや少ない
両親の学歴	0.76	0.15	
新しいものの好き	0.91	0.13	
親子時間	0.68	0.13	
子の情報活用能力	0.51	0.12	
約束を守る	0.39	0.10	
親の年齢	0.37	0.07	
ペアレンタルコントロール	0.22	0.06	
友だちの多さ	0.28	0.05	

表 8 中学生 X 高頻度の子の特性

説明変数	レンジ	偏相関係数	高頻度の子の特性
親の年齢	1.00	0.15	
新しいものの好き	0.86	0.13	
子のICTスキル	0.83	0.13	
親子時間	0.71	0.12	
友だちの多さ	1.03	0.12	
親のネット利用時間	1.01	0.11	
両親の学歴	0.76	0.09	
学校の成績	0.66	0.08	
子の情報活用能力	0.51	0.08	
約束を守る	0.40	0.07	
ペアレンタルコントロール	0.38	0.07	
子どもの性別	0.12	0.02	

5. 考察

小中学生の両方において、またサービスを問わず共通して確認できた特性は、「親と子が直接会話する時間」が短いことである。学校へのスマホの持ち込みが9割以上禁止されていることを考慮すると、SNSの利用は家庭内で利用することが中心となる。家庭での時間の利用においてSNSが多くなれば、親と子が会話をする時間が減少することが、この結果に反映された可能性がある。

さらに、「子のICTスキル」に関しては、小学生では低く、中学生になると高い子が高頻度利用者の特性として見られた。中学生になると、単純にメッセージを送信するだけでなく、情報の検索や自身が作成したコンテンツを送付・公開する機会も増加する。そのため、一定のICTスキルが必要となることが影響していると考えられる。

今回の結果では、SNSの利用頻度の差と「ペアレンタル・コントロール」の設定有無との間

に、小中学生両方とも相関が見られなかった。これは、ペアレンタル・コントロールを設定している場合でも、高頻度でSNSを利用している子どもがいる実態を示している。また、友達の多さとの関連が低かった。SNSの高頻度の利用は友人とのメッセージのやりとりだけではないことが示唆された。

参 考 文 献

モバイル社会研究所（2024）データで読み解くモバイル利用トレンド2024-2025. NTT 出版, pp260

水野一成（2024）2024年度情報行動研究会・モバイルコミュニケーション研究会共催研究会, https://www.mobaken.jp/papers/pdf/202410_JSICR_slide2.pdf（参照日 2025. 01. 16）

警察庁（2024）【SNSに起因する事犯】重要犯罪等の被害児童数の推移, https://www.npa.go.jp/policy_area/no_cp/uploads/R5kodomo.pdf（参照日 2025. 01. 16）

水野一成, 近藤勢津子, 吉良文夫（2024）小中学生のICTスキルの類型化. 日本教育工学会研究報告集, 2024 巻1号 p. 130-133

高比良美詠子, 坂元章, 森津太子(2001)情報活用の実践力尺度の作成と信頼性および妥当性の検討. 日本教育工学会24(4), 247-256

Characteristics of elementary and junior high school students with high use of SNS

KAZUNARI MIZUNO(NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)

SETSU KO KONDOU(NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)

FUMIO KIRA(NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)